

## クナール河増水、難民送還が再開

### マルワリード II 予定通り進行

### 主幹排水路、全線で床面を完了

おかげさまで無事予定の工事が仕上がりつつあり、増水期のII堰も無事らしきことを確認しました。激闘の冬は過ぎましたが、洪水期に向けて護岸工事が急ピッチで進められています。

#### 1) MII 関係

MII 主幹水路；沈砂池まで送水可能で水路壁下段を終え、上段は急がず、主力を護岸と分水路造成に振り向けています。

護岸；2.5 km地点を工事中、水制は1.5 km地点を追いかけています。間もなくしめきり堤と連続。

沈砂池 I；基本的な造作は終了。

コーティ分水路；950m中約500mまで仕上がり、工事先端のライニングは間もなく完了。

2) ガンベリ主幹排水路；1.8 km全線で床面（U字溝）設置を完了、側壁の練石積みは200mを残すのみ、上段のふとん籠工は約75%を終えました。

3) 難民キャンプについては、その後の観察で以下の通りです。

1. カチャラは交通・治安・収容力などで、キャンプとしては不適。カチャラ村自身が多数の帰還難民で困っている。

2. ガンベリ沙漠に築かれているキャンプは、遊牧民（クーチー）の血縁だけで、ほぼ部族内の相互扶助だけで成り立っている。彼らの話では、現在4,000家族に膨れ上がり、4月になってから数百家族が新たに加わった。PMSのガンベリ農場から約9.8 kmの道程、全く独自に運営され、自前の定期便でジャララバードと結ばれている。数はあてにならないが、かなり多いのは確か。夏期は気候が厳しいので、何らかの動きを迫られると思われる。

3. 政府・国際団体ともに、今のところ目立った動きがない。地縁血縁を頼りに、静かな動きが展開している。

4. PMSは、とくに「緊急支援」を掲げず、現事業に集中する。MII流域で、灌漑の仮工事を速やかに進めて帰農を促進、重機を減らして手作業を重視、できるだけ多くの村民が日当で潤うように配慮（現在約250名）。

以上の次第で、要するに現事業の継続です。

2017年4月8日 記

ジャララバード市内の一般的な光景。交通渋滞が日常化している。車両の60~70%以上がリキシャで、以前の静かな街並みを知る者には信じられない光景。2017年4月5日





ミラーンのカマ橋付近。大きな街並みになっている。2017年4月3日

マルワリードⅡ作業地のベラ村を下流側から望む。2015年に発生した洪水で大被害を出した分流は、昨年PMSの手で閉塞（しめきり堤）され、少しずつ乾燥してきている。村民たちが戻ってテント生活を営んでいる。  
2017年4月5日



遊牧の群と混在していたが、遊牧民は去り、村人が生活している。家を建て始めた者もいる。

MII取水口から約8km下流、かなりの努力を要する。2017年4月5日





MII 取水口を下流から見る。既に夏日を思わせる暑さ。対岸はダラエヌール溪谷。ケシュマンド山脈の雪が薄い。春なのに、積乱雲が普通になってきた。2017年4月8日

MII取水門を下流から見る。ケシュマンド山系の白雪が頼りない。2017年4月3日



延びるコーティ分水路と排水路1の整備。2017年4月5日



護岸工事先端の3 km地点付近。このような浅い分流が幾重にも現れる。旧タラーン村の取水口があった場所。2017年4月6日



人海戦術。ダンプカー1台が20名、掘削機1台が40名分の日当に相当する。時と場合によっては人力もバカにならない。仕上げは綺麗だ。2017年4月6日



昨年仕上げた分流閉塞のしめきり堤（取水口から約4 km地点）。石出し水制は50m間隔。2.2 kmが既にあり、カチャラ村から下ってきた護岸線と間もなく連続する。連続すると、一気にベラ村まで作業地点を伸ばすことができる。

2017年4月6日

カーヘル

